

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)7月5日 No. 1129

目次

ガスピロムの国内戦略	坂口 泉 1
アルメニア共和国政府人事一覧(1999年6月16日現在)	13
ロシアの省庁の統廃合	14
CIS諸国通貨の最新為替レート	14

ガスピロムの国内戦略

一周辺の動きから垣間見えるガスピロムの野望

はじめに ガスピロムをめぐる最近の動きの中で、筆者が特に注目しているのは、①ガスピロムによる企業買収の動きと、②イテラという謎の企業の動きの2つである。筆者には、この一見何の関連性もないようにみえる2つの動きは、実は同じ方向性を有し、同じ目的地を目指しているのではないかと思えてならない。その目的とは、国内および旧ソ連諸国でのガス販売の収益性を向上させることである。

①は、具体的には、ガスもしくは随伴ガス生産を最上流とし、タイヤ生産等を最下流とする一大石油化学コンツェルンを構築しようという動きである。そこには、流動性の比較的高いタイヤ等の製品の販売権を獲得することにより、国内でのガス代金回収率を少しでも高めようとするガスピロム側の意図が潜んでいると筆者は考えている。

次に②の動きであるが、これははっきり言って、単なる憶測の域をでない話である。ただ、イテラという企業、ならびに、同社とガスピロムの関係のニュアンスを知っておくことは、今後、ガスピロムと付き合う上で無駄ではないと思われるので、敢えて取り上げることとした。

後で詳細に紹介するが、イテラという米国に登記されている企業が、ここに来て、ロシア・ガス業界での活動を非常に活発化させている。たとえば、最近、同社はスヴェルドロフスク州でのガス販売権やヤマロ・ネネツの中規模ガス田の開発権を獲得している。ガスピロムのヴァヒレフ社長も、イテラのロシア・ガス市場への参入を容認しており、あるインタビュー記事で、「将来、イテラはガスピロムに次ぐ規模のガス生産企業になるだろう」という主旨の発言を行っている(NG、1999.2.19)。